Bull. Fac. Life Env. Sci. Shimane Univ., 11：1, September 30, 2006

巻　頭　言

生物資源科学部長　柴田　均

Dean, Prof. Dr. Hitoshi SHIBATA

生物資源科学部研究報告の第11号が発行される運びとなりました．学術委員会ならびに関係各位に深謝します．

本号では17年度における教員の活動状況を業績目録として掲載してあります．著書，学術論文，学会発表，国際交流の実績，留学生の受け入れ状況，共同研究や受託研究，科学研究費の採択，特許等，民間・地域社会への協力，招待講演などに分類して記載されています．連合農学研究科からも，毎年度末に「年報」が発行され，教員の研究活動として，公表論文等，招待講演，学術賞等の受賞，研究助成について，各専攻の連合講座ごとに構成大学の順に記載されています．本学部では，独自で開発したWeb入力システムを活用して，教育，研究，入試・就職・課外活動，社会貢献，国際交流，管理運営の6分野を包含する膨大な項目についての15年度の活動状況が入力されています．これらの機会は，年度ごとに個人評価を実施することに繋がり，教育研究のレベルを向上するために寄与してきたものと捉えられます．

平成18年3月27日付で，島根大学における大学評価に関する基本方針が定められました．組織評価の目的として，「評価を通じて本学の教育・研究活動の質的向上や個性の伸長を図るとともに，本学の社会に対する説明責任を果たすこと」を掲げています．個人評価は「評価を通じて本学の教育・研究活動等の質的向上，または職務の向上を図り，もって本学の理念・目標の実現を図ること」を目的としています．16年度及び17年度の諸活動に基づき作成された自己評価報告書に基づいて，個人（教員）評価が試行されます．本学部では，「教育」，「学術・研究」，「社会貢献」，「組織運営」の4つの領域について，それぞれに定めた評価項目について自己評価し，それに基づいて学部に設置される評価組織において，個人評価が実施されます．

生物資源科学部研究報告の第1号から第4号までは，著書・論文・学会発表のみが活動状況として記載されていましたが，第5号から学部業績目録に記載する項目が増えております．今後の組織及び個人評価に連動させ，生物資源科学部，研究科の教育・研究を向上させるためにも，生物資源科学部研究報告，特に業績目録の充実を念願しております．

平成18年6月30日